

11 白山神社境内の建造物

(1) 白山神社の境内

白山神社は風光明媚な自然の中にありました。

鳥居という独特な門があり、長い参道の奥は、鬱蒼とした森に囲まれ、清められた境内に社殿があり、その本殿の中には氏神様が鎮座しています。

清浄である印として、注連縄が掛けられており、参道の傍らには手水舎があります。

こうした神社のカタチは先人たちが長い時間をかけて創造してきたもので、様式に違いはありますが全国ほぼ同じです。

不変と思われる現在の神社のカタチは、これからも少しずつ変化していくと思われます。

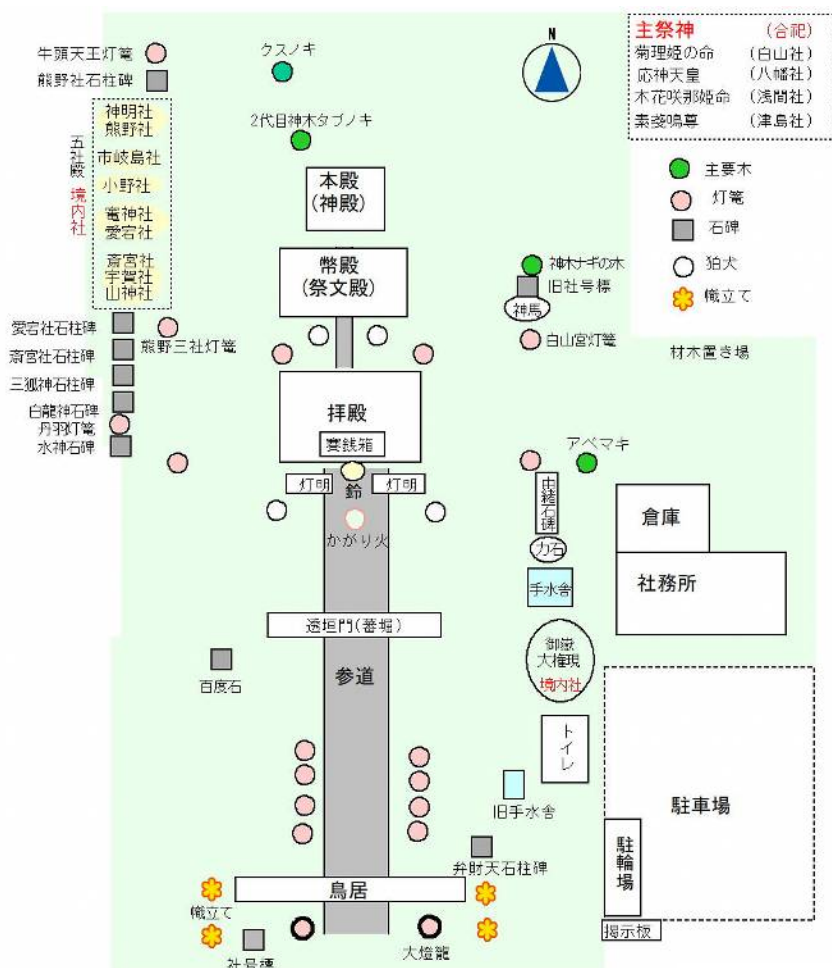
白山神社の境内には、古くから存在しているもの、新しく造られた物など様々な建造物などがあり、その多くが氏子による奉納物です。

神と人間を結ぶ具体的作法が「祭祀」であり、その祭祀を行う場所が「神社」であり聖域とされました。

神社とは、祭祀を行う組織をいいますが、神々を祀るための建物や施設の総称でもあります。

神社の境内は「鳥居」の内側を差し、「玉垣」と呼ばれる石柱が巡らされている範囲を神域としています。

神様と参拝する人々を結ぶひとつの世界でもある神社境内にある建造物について調べてみることにしました。



令和5年8月現在

(2) 建築物

① 社殿

白山神社の社殿は、「本殿」、「幣殿」、「拝殿」でできており、祭祀がそこで執り行われます。

社殿の造りは「尾張造」といって、本殿、幣殿、拝殿を回廊で繋いだ左右対称の尾張地方独特の建築様式で、一宮の真清田神社や津島神社に見られます。(ただし、当神社の本殿と幣殿はつながっていません)

以前の社殿は昭和 11 年に建てられたもので、区画整理を見据え、また 60 年の歳月で老朽化も伴っていたことから、平成 2 年に総工費 7 千万円をかけて、現在の社殿に建て替えられました。

再建にあたっては、鉄筋コンクリートの社殿も考えられましたが、古代建築の美を求め今までどおり木造建築とし、従前の規模・様式を基準としました。

資金は、白山神社所有の土地(河戸 745 番地の 1 山林 552m²)、(村中 1301 番地の 4 畑 796 m²)で、1 m²当り 57,500 円で市土地開発公社に公共施設充当用地として売却し神社造営資金に充当しました。

平成 2 年 1 月 1 日に着工し、平成 2 年 11 月 27 日に上棟式、平成 3 年 6 月 24 日に遷座祭が行われ、平成 3 年 6 月 30 日に竣工奉祝祭、稚児行列が行われています。

○本殿(神殿)5m² (一間四方、階段含め)切妻の平入、高床式の穀物蔵の流造り

本殿には氏神様がおられ 3 枚の扉により納められています。

普段はその扉は閉められています、白山神社の祭礼時に宮司により扉を開かれます。

3 枚目の扉の奥には御神体(木彫神像 4 体)、2 枚目の扉の奥には過去の棟札 8 枚が収納されています。(秋の白山神社例大祭時には 2 枚目の扉も開かれます)

扉には金メッキの神紋(五三の桐紋)が施され、細部にも飾りが施されています。

高く積まれた石垣の水屋造りの上に高床式の本殿があり、屋根は曲線を描き前方に伸びた「流造り」の「切り妻」「平入」で、銅葺屋根の妻にも五三の桐紋 18 個が輝いています。

○幣殿(祭文殿)20m²(三間×二間)切妻の平入

幣殿は、祭礼の式典が執り行われる場所で、白山神社の祭礼時には、宮司、来賓、氏子の代表がここに入って儀式が執り行われます。

○拝殿(神楽殿)20m²(二間×三間)切妻の妻入

拝殿の天井は格天井で、6 寸角の柱 12 本で支えられた壁のないオープンな空間で、参拝者が本殿に向かい参拝を行う場所ですが、御神楽などを神様に奉納する場所(舞台)でもあります。



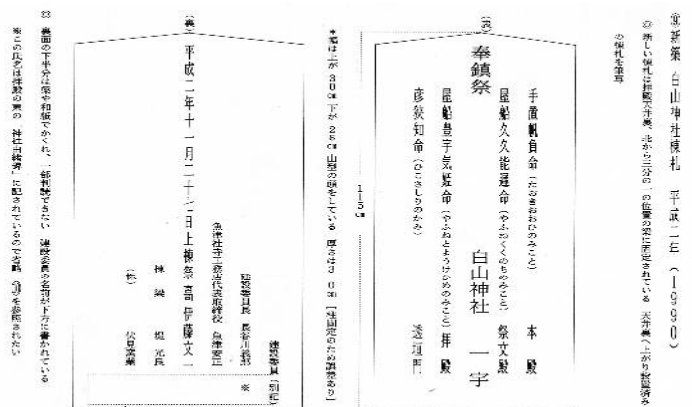
こちらが拝殿(切妻妻入)、向こうに見えるのが幣殿(切妻平入) 写真は令和 3 年



本殿(切妻平入、流造り)、高く積まれた石垣の水屋造りの上に本殿がある。屋根は曲線を描き、前方に伸びており、屋根の妻の部分には、五三の桐紋が輝いている。 写真は令和 3 年



本殿の 1 枚目の扉 扉にも五三の桐紋が輝いている。



白山神社棟札

棟札の写しは、平成 10 年 3 月岡島博氏が写し取ったもの

② 社務所 52m²

祭祀を行うために村人が集合する場所である社務所は、各島にあった神社の附属建造物を集合移築(10m²)したものを使っていましたが、老朽化したため、河戸地区の人達の集会所も兼ねて昭和 55 年に建て替えられました。

総工費は 700 万円で、白山神社運営費(約 180 万円)、氏子寄付(約 200 万円)、事業所関係寄付(約 100

万円)、一般区民寄付(約 20 万円)、市補助(約 200 万円) で計画しましたが、実際の工費は 618 万円で、一般・氏子寄付(277 万円)、事業所関係寄付(109 万円)、市補助(232 万円) となりました。

白山神社の運営費は使うことなく、寄付と市補助金により昭和 54 年 7 月 1 日着手し、昭和 54 年末(12 月 30 日)に竣工式が行われました。

③ 倉庫 28m²

社務所の隣に建設されている倉庫については、工費 203 万円にて、昭和 58 年に竣工しました。

倉庫の中には、各島の祇園祭の馬道具などが保管されています。

④ 手水舎 (ちょうず又はてみず) 4.47m²

神社を参拝する際には手や口を清める風習があり、これを手水と呼びます。手水舎は、手水をおこなう建物のことで、昔は庄内川をながれる川の水(湧き水)で手を清めていたそうです。

この建物は、平成 2 年の現在の社殿に建て替えられた時に建てられました。

「御手洗」の石には建設委員の 17 名の名が刻まれています。

○ 旧手水舎は、1 代目神木があった北隣にあります。現在は清掃用となっています。石の水受の正面「奉納」、裏面「明治 19 年(1886)10 月長谷川喜兵衛」と刻まれています。

⑤ 透垣門(蕃塀)(不浄除)(目隠し門)

透垣門(蕃塀)は、「不浄除」、「目隠し門」ともいい、尾張地方の神社に多く見られ、この辺では「ラチ」「ダチ」とも言われます。

これは、門に似た形をしているが扉がなく、ラチは開かなく通れないというので、「ラチアカン」「ダチカン」という言葉が生まれたと言われます。

不浄なものが本殿まで行かないよう防ぐ不浄避けの意味と、神様を直接見るのは恐れ多いという考え方から視線隠しの意味もあるとされています。

屋根は銅版葺で破風に金メッキの五三の桐紋 8 個が取り付けられています。

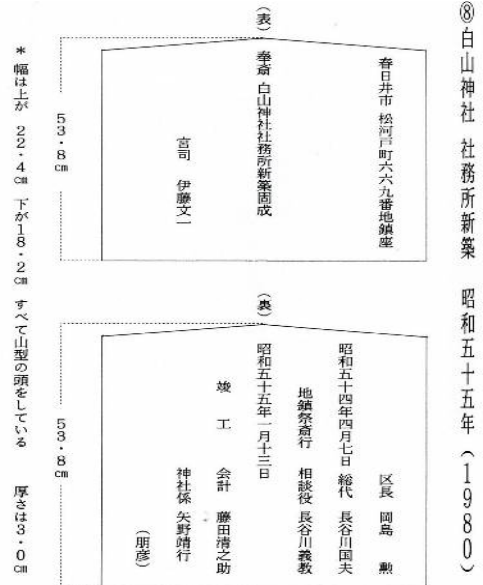
平成 2 年の社殿が建て替えられた時に建て替えられています。



現在の社務所 写真は平成 4 年



奉納金揭示板名簿



社務所棟札 棟札の写しは、平成 10 年 3 月岡嶋博氏が写し取ったもの



倉庫 写真は令和 4 年



現在の手水舎写真は令和 4 年



旧手水舎 写真は令和 4 年



(3) 構築物

① 境内社(五社)

大正元年9月に「1村1社合祀令」により、各島の神社が白山神社に合祀あるいは境内社とされました。

境内の本殿西側には、それぞれの祠が安置され、5祠9社を祀っています。

また、集合前の各神社の社号標や石碑なども移築されています。



▲白山神社境内社(五社)
写真は平成27年

○各島の神社から移築されたもの

①「牛頭天王」石灯笼(高さ185)

延享3年(1746)建立、道下島の津島神社(天王社)から移転。熊野三社灯笼と同じ型

東正面「牛頭天王」、西面「春日井郡松河戸村氏子」、北面「延享三 天」、南面「9月吉祥日」

②「熊野三社」石灯笼(高さ185)

延享3年(1746)建立、中島の熊野社から移転。牛頭天王灯笼と同じ型

東正面「熊野三社」、西面「春日井郡松河戸村氏子」、北面「延享三 天」、南面「9月吉祥日」

③「丹羽献燈」石灯笼(高さ185)

文化7年(1810)建立、村内社の表示がないので、もともと白山宮にあったものと思われる。

東正面「献燈 丹羽源七郎 施主」、西面「文化7庚午(1810)天建立」

現在最古の棟札(1717)に願主 丹羽源七郎との記載がある。

昭和初期(10年頃)の資料によると、社家 丹羽原右衛門との記載がある。(源七郎と原右衛門との関係は?)

④「熊野社」石柱碑(17.2×14.3×100) 昭和43年10月建立

戦後旧社地に小祠を建て祀っていた中島の熊野社から区画整理のため、平成12年3月19日移転した。

⑤「愛宕社」石柱碑(18.5×18.0×123)

川原島の愛宕社から齋宮社跡地に移転し、齋宮社小祠移転時(平成12年3月13日)に白山社へ移転した。

南正面「愛宕社」、東面「国家安全」、北面「明治3庚午2月」、西面「當村 長谷川五三郎」

⑥「齋宮社」石柱碑(17.3×17.7×96.0) 昭和42年10月建立

戦後旧社地に小祠を建て祀っていた段下の齋宮社から区画整理のため、平成12年3月13日移転した。

⑦「三狐神」石柱碑(18.5×18×110)

明治3年(1870)2月建立、川原島(段下)の齋宮社の境内社にあったもので一本の石柱が御神体で、狐の霊をまつり、稲荷神と同じく、豊作の神と水難除けの神にされていた。大正元年に白山社に移転した。

東正面「三狐神」、西面「明治3庚午2月」、北面「国家安全」、南面「當村 長谷川五三郎」

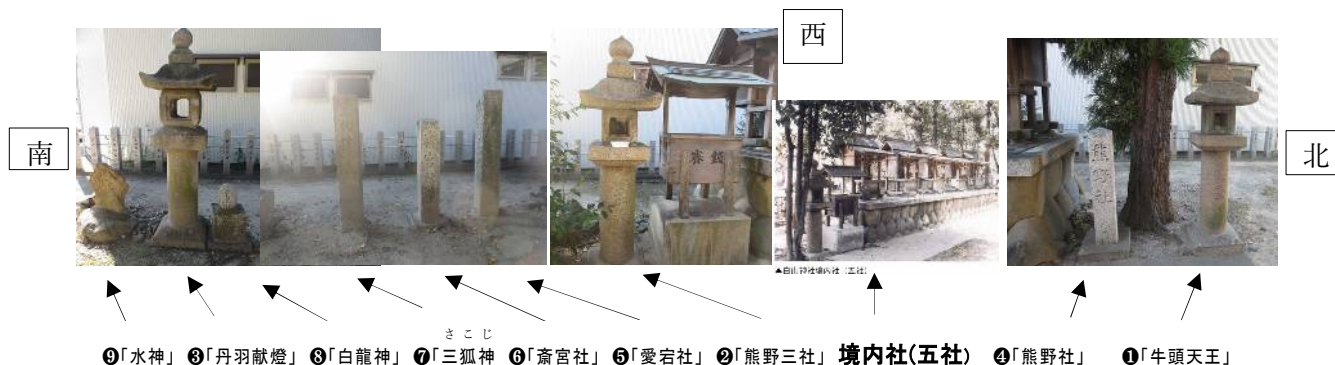
⑧「白龍神」石碑(18×10×25)

卵形の花崗岩自然石大小2個の石がくっついている。

正面に「夢白竜神」と刻まれている。柴山孝個人宅の「屋敷神」から移転

⑨「水神」石碑

堤防脇から移された道下島の津島神社にあったもの。



写真は令和5年

② 御嶽社

不浄除(目隠し門)の東側には、石造物を御嶽山を模して小山を築き、「御嶽大権現」や「行者像」を中心にして、「御嶽先達」「大峯先達」碑を配していますが、これは、昌福寺(境内本堂南西にあった)から明治42年(1909)移築され、大正元年(1912)に境内社となりました。

この辺りでは、江戸末期から御嶽講が結成され、明治以降隆盛となり、いろんな分派が生まれましたが、この地域では松河戸誕生講が行われていました。

礫岩と役行者石像、御嶽社小祠、石碑5基

「大峯先達-6名」明治42年2月発起人講中 75×44×125

「御嶽先達-5名」昭和39年4月発起人講中 61×11×110

「国覚霊神」俗名加藤金次郎 昭和36年2月建立 40×15×40

「覚修霊神」俗名加藤源一 昭和54年5月建立 45×6×70

「富辛中典」 黒色の自然石 17×17×43

「役行者石像」(えんのぎょうじゃ)(30×26×65)左手に巻物、右手に杖を握った形



御嶽社
写真は令和5年

③ 鳥居

神社の境内は「鳥居」の内側を差しており、そこは神域で、神様と参拝する人々を結ぶひとつの世界でもあります。

区画整理で参道の中を道路が通ることを見据えて、平成3年6月に現在の鳥居(第2鳥居)が建てられ(写真の奥)、平成22年の境内の配置変更時までの20年間2つの鳥居が存在しており、第1鳥居、第2鳥居と呼んでいました。

新鳥居(第2鳥居)には、向かって左の柱に厄年22名、右には還暦12名の名が刻まれており、旧鳥居(第1鳥居)に比べて、若干小ぶりになりました。

手前の旧鳥居(第1鳥居)は、大正元年(1912)11月、村内の神社を合祀又は境内社とされた時に建立てられたもので、以前は木造鳥居が建てられていました。



▲平成13年 白山神社掃除

旧鳥居の奥に新鳥居が見える。

大正時代以降全国的に石造りの簡明な神明鳥居が多くなり、その頃建てられたものです。

旧鳥居は解体され、鳥居上部の横柱は現在倉庫の北側に置かれており、柱については境内の裏門の石柱となっています。

○旧鳥居(第1鳥居) 柱の下部の回り 108 cm、直径 34.4 cm、2本の柱の間 298 cm 大正元年(1912)11月建立 神明鳥居

○新鳥居(第2鳥居) 柱の下部の回り 100 cm、直径 31.8 cm、2本の柱の間 240 cm 平成3年(1991)6月建立 神明鳥居

④ 参道

参詣するための道のことで、初めの鳥居をくぐって社殿までの道を指しています。

参道の中央は正中と呼ばれる神の通り道であり、参拝のときには真中を避けて端を歩くことが礼儀とされています。

白山神社では、参道がコンクリート敷になっており、正中は砂利道となっています。

平成22年の境界見直しで、長かった参道は半分程度(35mが減失)になりました。



参道 鳥居下から透垣門を臨む
参道の両側には寄進された石灯籠が並んでいる。 写真は令和5年

⑤ 玉垣

神社の聖域を囲む垣で、氏子等の奉納で設置されています。

- ・本殿周囲の玉垣 93 本は、旧本殿再建の昭和 11 年 5 月に奉納された物です。平成 25 年に補強修理 (修理費 45 万円)されています。
- ・拝殿周囲の玉垣は、奥の左右 18 本(計 36 本)が無名玉垣で、手前の 23 本(計 46 本)が昭和 51 年 7 月に奉納された氏名玉垣です。
- ・境界周囲の玉垣は、合計 289 本+表門 2 本+裏門 2 本あります。平成 22 年区画整理で神社境界が確定して、境界の配置がみなおされ整備された時に奉納されたもので、平成 23 年 5 月完成奉告祭が行われました。

(4) 設置物

① 狛犬

神社にお参りすると参道の両脇に一对で置かれた石製の狛犬を見かけますが、神域に魔物が侵入しないように見張り、神様を守護する役目を持っています。



幣殿前の狛犬 花崗岩製
大正 7 年に建立

拝殿前の狛犬 花崗岩製
平成 3 年 6 月に建立

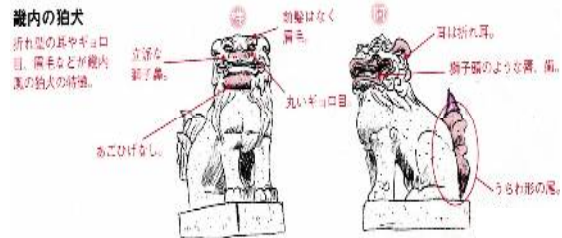
境内には 2 対の花崗岩で造られた狛犬がありますが、幣殿の前の狛犬は旧幣殿前にあったもので大正 7 年に建立されたものです。

もう 1 対の拝殿の前の狛犬は、平成 2 年の社殿建立の時に建立されたもので、どちらも畿内の狛犬の特徴を現しています。

- 旧狛犬 大正 7 年(1918)2 月 (寄附人 岡嶋銀左エ門、岡嶋魯宗、岡嶋奇山) (岡崎 酒井孫兵エ 刻)
- 新狛犬 平成 3 年(1991)6 月 (寄附人 岡島勲はじめ 4 夫婦 8 名)

狛犬は、口を開けた阿形あぎょうと口を閉じた吽形うんぎょうの一对の像からなっており、これは仁王像などにもみられるもので、ものの始めと終わりを現しています。

狛犬の表情も微妙に違って見比べてみるのも楽しみです。



② 社号標(名標柱)(36.5×36.5×約 300)

神社名を刻んだ石碑で、神社の入り口に設置されています。

現在の社号標は、昭和 5 年(1930)2 月建立されたもので、自然石の上に花崗岩の標柱「白山神社」の社標が立っていますが、戦前に立てられた物なのに社格(村社)は入っていないのが気になります。

(戦後 GHQ により社格が廃止(昭和 21 年)され、セメントなどにより塗りつぶした神社も多かったとききます。)



現在の社号標
昭和 5 年 2 月建立



大正元年建立当時の社号標
写真は、大正元年 10 月
～大正 7 年頃

大正元年(1912)10 月に建立された時(各島の神社が集合され松河戸の村社となった時)の社号標には、「村社」という文字が入っています。この旧社号標は、現在、幣殿の東側(神馬像の北)に移設されています。

現在の社号標 昭和 5 年(1930)2 月建立 (献主 岡島貞治郎、貞雄、貞義、貞之、貞敏)、(岡崎市 石工 小林秋三郎)

標柱の「白山神社」筆者 才木 蓼溪りょうけい ※堀川須崎崎の石材卸商で書家、大島君川に学ぶ。春日神社由緒碑等の筆跡がある。

旧社号標 大正元年(1912)10 月に建立 施主 岡島貞治郎 ※現在幣殿の東側に移設 (22×18×205)

③ 祭礼用幟棒

平成 22 年の境内の配置変更時に、木の幟棒から現在のアルミ製の幟棒に代わり、幟棒はコンクリート基礎で固定されています。

それまでは、木製の棒を使っており、台座石(31.5×18.5×92.0 二対)の上に鉄の金具で木の棒をボルトで固定するものでした。

台座石は 4 つあり、手前(南)が明治 29 年(1896)6 月建立(台座石(31.5×18.5×92.0 二対)、奥(北)が昭和 7 年(1932)10 月建立(台座石(21.0×15.0×83.0 二対)で、右写真の金具 2 本で 1 本の幟棒を台座に固定して立てていました。

台座石は現在倉庫の東に置かれており、「明治二十九年六月建之」「氏子中」と記載があります。

木製の棒は、社務所と倉庫の隙間の間に置かれています。



現在の幟棒 4 本 写真は令和 5 年



木製の幟棒時代
締め具(固定具) 台座石

④ 由緒標

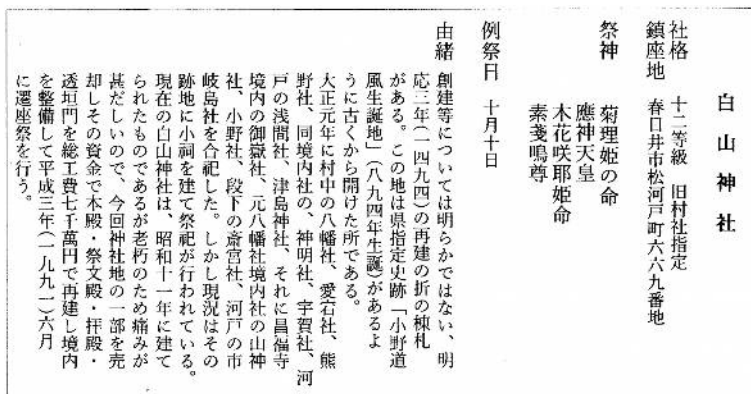
由緒標が現在 2 つあります。

一つは、拝殿前にあるもので、昭和天皇の御大典記念として昭和 3 年 11 月に造られたもので、板に墨で書かれており字が薄くなって見づらくなっています。

もう一つは拝殿の右側の石碑で、現在の社殿が平成 2 年建立に際し立てられました。

裏面には奉獻として宮司伊藤文人始め造営委員 17 人の名が記載されています。

(132.5×25×92.5)



▲白山神社の由緒石碑

⑤ 白山神社神馬(献馬像)(馬の大きさ 153×50×125)

幣殿の西側にあるコンクリート製の白馬で、旧本殿が建立された昭和 11 年 10 月に奉納建立されました。

西側 「奉納」 北側 「昭和 11 年(1936)10 月 長谷川 斧」



神馬
手前の灯籠は白山宮灯籠

⑥ 力石

白山神社の境内に「力石」という 92Kg の石が飾られています。

これが持てるようになると、村で一人前だと認められたといひます。

本殿東の木の下に保管されていましたが、平成 18 年(2006) 1 月に今の場所に設置されました。

力石の由来

当白山神社において、明治時代から昭和の初めにかけて村の多くの青年達が集まり、この石を肩までかかろうと互いに力を競い合ったものと伝えられています。重さは九十二キログラムあります。今では昔を偲ぶたいへん貴重な石で、未永く保存したいものです。由来については、氏子の皆さんからお聞きし、氏子総代でまとめました

平成十八年一月吉日
氏子 一同



朝日新聞

重さ92kg「力石」鎮座 春日井

若者がかつて力比べに使った重さ92kgの「力石(ちからいし)」が、春日井市松河戸町の白山神社境内の新しい台座の上に据えられた。

石は幅65cmのラグビーボール形。神社の氏子総代長、長谷川豪(つよし)さん(73)＝写真右＝によると、第2次世界大戦前までは農作業をする若い男が神社に集まり、この石を持ち上げて力自慢をしていたという。しかし、戦後は境内に放置され、そばに小さな表示板が立てただけとなった。

「このままでは単なる路傍の石になる」と氏子らと相談して、御影石の台座を購入。郷土史に詳しい岡島博さん(76)＝同左＝が紹介文を作り、台座に彫り込んだ。

岡島さんは「周辺は区画整理で都市化が進んでおり、力石を知る人も少ない。文化遺産として後世に伝えたい」と話している。

⑦ 灯籠

①大石灯籠

鳥居の横に設置してある 2 対の大石灯籠は、平成 2 年の神社建替え時に建立されたもので、石造り基礎の上に台座 3 段の石灯籠です。

建設委員長はじめ 13 名の名が刻んであります。

石造り基礎の上に台座 3 段の石灯籠 平成 3 年(1991)6 月建立



旧大石灯籠と旧鳥居
写真大正時期

旧大石灯籠は、平成 22 年区画整理で境内の配置が見直された時に撤去され、社務所の裏に解体されて置かれています。

石造り基礎の上に台座 3 段の石灯籠がありました。

東側「常夜灯」「秋葉山」「村中安全」元治元年(1864)正月建立

西側「常夜灯」「太神宮」「村中安全」元治元年(1864)正月建立



現在の大石灯籠と鳥居
大石灯籠の後ろに参道沿いに寄進された灯籠が並ぶ

②参道沿いの石灯籠(春日灯籠一対 2 基、竿部角柱形の宮立型三対 6 基)

拝殿に向かう参道沿いには、左側に厄年の人達、右側に還暦の人達の寄進した灯籠が並んでいますが、現在の社殿建立以降(平成 5 年～ 8 年)に整備されました。

③「白山宮」石灯籠 (高さ 185)

幣殿東側には、延享 2 年(1745) 6 月建立の石灯籠があります。

境内最古の石灯籠で、西正面「白山宮」、南面「延享二乙丑 6 月吉日」、北面「春日井郡松河戸」、東面「願主 氏名 9 名(不詳)」と刻まれています。文字面風化し判読困難となっています。(境内最古の建造物)



「白山宮」石灯籠

④木灯籠(4基)

頭部木製 竿部柱型の春日灯籠で拝殿の四方に 4 基設置してあります。(平成 3 年 6 月建立)



木灯籠

⑧ 灯明台 (163×53×163)

花崗岩製の灯明台が拝殿前に設置してあります。

西の灯明台は昭和 11 年 8 月に設置、東は昭和 42 年 7 月厄年 8 名によって設置されました。

平成 20 年代頃まで、氏子の輪番により、毎日夕刻灯明が灯されていました。

西 昭和 11 年 8 月 発起人 長谷川 斧 同郡小牧町大字 河内屋 佐野重一
東 昭和 42 年 7 月 厄年一同(8名)



灯明台

⑨ 神社名額(扁額)(ケヤキの 1 枚板 166×54×厚さ 4)

「白山神社」の浮き彫りの名額で拝殿正面に掛けてあります。

裏書判読不明ですが、明治 13 年(1880)頃のものといわれています。



神社名額(扁額)と鈴

⑩ 賽銭箱(ケヤキ材 103×55×60)

昭和 59 年 7 月に還暦記念(7名)として置かれました。



賽銭箱

⑪ その他石碑

①「弁財天」石柱碑(18.5×18×102)

鳥居の東に立てられています。明治 3 年 2 月建立されており、西正面「弁財天」、南面「国家安全」、東面「明治 3 庚午(1870)2 月」、北面「當村長谷川五三郎」と刻まれています。判読が困難な状態です。

(河戸島(中小路)の市岐島社(弁財天)から移転)



「弁財天」石柱碑

②百度石(18.5×17.5×53.0)

戦時中に「千度参り」を行った時のもので、「謝恩樟樹」「還暦記念 岡島貞治郎」「昭和 6 年 2 月 11 日建立」とありますが、平成 22 年の境界が見直された時にここに移されたもので、その時の楠(樟)木はみあたりません。



百度石

③記念樹標柱(8×8×40)

昭和三十九年、長谷川鉄蔵(本名)、長谷川鉄造(俗名)

今回から予定しています「第三章、白山神社にあるもの(建造物)(保管所蔵物)(鎮守の森)」については、25 年前に岡島博氏(氏子総代)が当時の状況を詳細に調査した「松河戸白山神社の記録 平成 10 年 3 月」(境内配置整備前)が残されており、この資料を参考にしています。この資料は、社務所に保管されていますので是非ご覧ください。

・次回、神社シリーズNo.12では「白山神社の保管所蔵物」をお送りします。

第一章 白山神社の神々と祭り

No. 1 「市内にある白山神社」、No. 2 「松河戸の夏祭り」、No. 3 「神々と神社の成り立ち」、
No. 4 「白山神社の秋祭り」、No. 5 「小野社と顕彰活動」、No. 6 「春祭り」、

第二章 神社管理と運営

No. 7 「神社の経営」、No. 8 「神社の管理運営組織」、No. 9 「白山神社の修復・再建」、
No.10 「「村社」社名の由緒」
No.11 「白山神社境内の建造物」については、下記ホームページにも記載してあります。

ドメイン名「com」については現在不通になっています。

「org」で閲覧ください。

松河戸文化科学探求隊

隊長 長谷川 浩

080-3657-7052

松河戸町の沿革ホームページ

<http://matsukawado.org/>